



家族旅行先のアリゾナ州にて ホストシスターたちと

「最高の一年」 廣川 愛さん（2010年ー2011年 米国）

こんにちは、2010年から2011年にアメリカ合衆国のテキサス州に派遣された廣川愛です。帰国から丸一年がたち、約10キロ太った体重もすっかり元に戻りました。テキサスで買ったTシャツが大きくなるにつれて、思い出が遠くなっていくようで少し寂しい気持ちがあります。

私の派遣先、テキサス州はアメリカ合衆国の南の端にあります。テキサスにはヒューストンやダラスなどたくさん大きな都市がありますが、私が住んでいたのは人口およそ10万人のデントンという中核市です。テキサス派遣が決まった翌日に、アメリカで起こった凶悪犯罪を特集したテレビ番組を見て、そのほとんどがテキサス州の事件だったことから、私の中では「テキサス＝治安が悪い」というイメージでしたが、デントンは家の周りを10分ほど歩くだけで、牧場にいる馬やヤギ、ロバなどの動物や、野生のリス、アルマジロ、スカンクやウサギに会えるようなのどかなところでした。治安も良く、鍵をかけなくても大丈夫なほどです。新潟市内には絶対にならないような自然いっぱいの街で、夜に見える星が本当に美しく、着いてすぐに大好きになりました。「夜遅くなったら庭の奥まで入ってはいけないよ、コヨーテ(オオカミの一種)が出るかもしれないからね」と言われたときは驚きましたが。

ホストファミリーにも恵まれ、スターバックスとカーレースが大好きで、毎週末、特注レースカーでレースに連れて行ってくれるお父さん、油絵、裁縫、料理となんでもこなす芸術家のお母さん、しっかり者で頭脳明晰、年下とは思えないレイチェルと、スポーツ万能でちょっと生意気なサラと5人で一年間を過ごしました。彼らにとって私は初めて受け入れる留学生。最初の頃は、いい子でいよう、と無理に自分を抑え、何も自己主張をしない子として振る舞っていました。でも、すごく大きな心を持ったパパとママのおかげで、自分でも意識しないうちに緊張がほぐれていき、帰国前には、私がいかに猫をかぶっていたかが笑い話になるくらい、明るく(いい意味でうるさく)振る舞えるようになりました。

私の通った学校は、アメリカンフットボールがとても盛んな学校でした。授業は自由に

選択することができたので、合唱、演劇、ダンス、法律学…と日本の高校にはないものをたくさん選びました。

今では笑い話ですが、登校初日のランチタイムに、混んだカフェテリアでどこかのテーブルに入れてもらおうとしましたが、シャイだった私はたった一言、「Can I sit here? (ここに座ってもいい?)」と言うことができず、結局昼食を諦めたのでした。

また、学校に通い始めて半月ほどたったある日、私は授業中に急に具合が悪くなり、保健室に行きました。熱を測ると99.5° F

(約 37.5°C) で、家でゆっくり寝よう、と思っていたところ、保健の先生は私に向かって、「平熱だからクラスに戻りなさい」と言ったのです。「平熱なんてことはない、私の平熱は36°Cだから華氏にすると96.8° Fで…」などと説明できるだけの英語力はその当時の私にはなく、また頑張っただけの元気もありませんでした。後から知ったことですが、欧米人の体温は私たちアジア人よりも約1°C高いのだそうです。その後私は無事に(?)家に帰ることができましたが、これがきっかけでセ氏と華氏の対応式を書いた紙を常に持ち歩くようになりました。

一年間、いろいろなことがありました。初めての合唱の授業中、皆にとって初対面のはずの私がなぜか副級長に任命されたこと、久々に日本食が食べたいなと思ってランチとして学校に持って行ったおにぎりが大人気になり、「一口ちょうだい、一口…」といわれるがままあげていたらあっという間になくなってしまったこと、日本で大震災が起こった日、正確な情報がわからず、日本に何十回かけても電話が通じず、不安でしょうがないまま学校に行ったら、たくさんの友達が「大丈夫だよ」とハグしてくれたこと、誕生日には黒板いっぱいの「Happy Birthday!」がいろんなクラスにあったこと…どれも大切な思い出で、宝物です。一年間でいろいろな国からの留学生とも友達になり、多民族国家なので、移民としてアメリカで暮らしている友達もでき、以前よりも世界についての興味が広がり、同時に日本人として生まれた誇りも感じるようになりました。留学をする前は、英語を話せるようになって、世界中を飛び回るような仕事をしたい、と漠然と思っていたのですが、留学を終えた今、アメリカはもちろん大好きですが、日本がもっと好きになり、日本につ

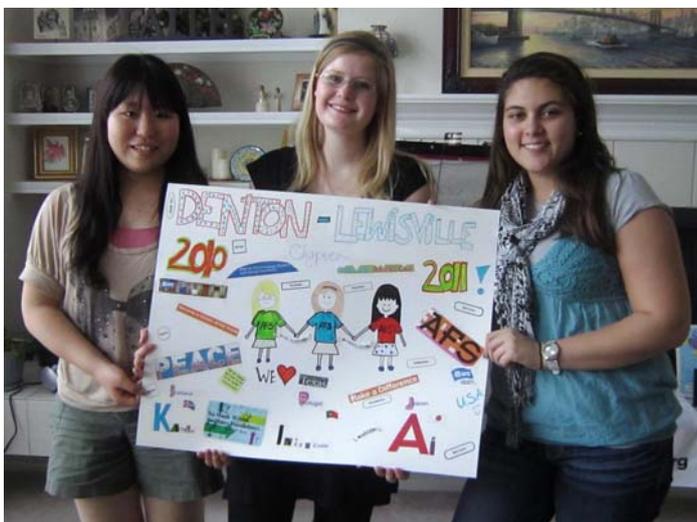
てもっと知りたい、学びたいという気持ちが増してきています。

辛いこと、日本に帰りたくてしょうがなくなったこと、泣いたこと、たくさんありましたが、それ以上にいい思い出がたくさんできました。

あの一年を乗り越えたのだから、これからの人生で大変なことが起こっても、乗り越えていけると思っています。とても素敵で、貴重で、良い経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。



学校のホームカミングというパーティーにて



最後の支部オリエンテーションにて 同じ支部の留学生と